



平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果【池田小】

教科(国語・算数)の平均正答率は、全体として全国とほぼ同等となっています。

1 はじめに

本年度の「全国学力・学習状況調査」は、全国の小学6年生と中学3年生を対象として、平成31年4月18日(木)に実施され、本校の6年生も参加しました。

その結果が7月末に学校に届き、その結果を基に職員で本校の分析を行いましたので、その概要を保護者や地域の皆様にお知らせします。

2 調査の概要

本調査は「教科(国語・算数)に関する調査」と「学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査」で構成されています。

① 教科に関する調査

教科は、国語と算数。今年の内容は、昨年までの基礎的・基本的な内容の「A問題」と、文章題などによる応用力などを試す「B問題」に分かれての出題ではなく、知識と活用(応用)を一体的に問う問題になっています。

② 質問紙による調査

学習への意欲、学習の方法、学習環境、生活の様子など、子どもたちの学習や生活・意欲に関する質問紙による調査です。

日常の読書や家庭学習等の生活習慣やゲームの時間等の調査結果を見ることで、学力と生活習慣の関係について今後の参考にすることができます。

3 本校の状況

<概況>

本校の教科(国語・算数)の調査の平均正答率は、全体的に全国及び県平均とほぼ同等でしたが、「国語」において、若干全国平均を下回りました。また、設問別では、漢字や計算等、基礎的な問題に課題が見られました。このことから、漢字練習や計算など基礎的内容を生活に生かすような反復練習が欠かせないことがわかりました。

<教科別の状況> △:課題のあるところ ○:良かったところ

【国語】

《総評》

全体的に全国平均と比べ、やや下回る問題が見られました。

△ 国語の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題の正答率が全国・県平均に比べ低い傾向が見られました。

△ また書く問題では、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明らかにし、まとめて書く」問題の正答率が県平均に比べ低い傾向が見られ、その正答率

は40%以下と苦手とする傾向が見られました。

○ 一方読む問題では、「目的に応じて、本や文章全体を大まかに見て効果的に読む」問題では、県の正答率よりも高い傾向が見られ、書くことより読む力が優れている傾向にあることがわかりました。

【算数】

《総評》

全体的には全国平均と比べてほぼ同等でした。

△ 「示された図形の面積の求め方を考え、その求め方の説明を書く」、「+と×の混ざった整数と小数の計算」、「示された割り算(÷)の式を見て、引き算での計算方法をもとに、割り算において成り立つ性質を書く」、「示された割り算(÷)の式の意味を理解して答えを選ぶ」問題について、全国や県平均より低い傾向が見られ、正答率も40%前後と数量関係の問題を苦手とする様子がうかがえました。

○ 一方、「図形の性質や構成要素に目をつけ、他の図形を作る」、「資料の特徴やその傾向を関連させて、一人当たりの水の使用量がどのように増減するかを考え、その理由を書く」、「示された引き算に関して、簡単に計算できる方法を理解し、別の問題に当てはめる」、「示された計算の仕方を見て、かける数や割る数を選んで計算しやすい式に直して計算する」問題の正答率は全国及び県平均を上回っていました。



4 教科における主な改善点

<国語に関して>

* 漢字練習、漢字の構成、漢字辞典の活用、同音異字、送り仮名などの漢字学習を生活に生きる形で行う必要があります。

また、ノートをとるときや学習感想を書くとき、連絡帳等に文や文章を書く際など、習った漢字を使おうとすることや、その漢字を正しく使うよう指導していく。そして、文を書くときには、主語と述語の関係にも注目させ、意識して書くよう指導する。

* 漢字習得のために、日常的に文や文章の中で適切に使うことが求められます。

書いた文章を読み返し、正しく使用しているかどうか振り返るように指導する。

* 文章を書く目的や、自分の伝えようとしている内容に応じて、相手にわかりやすく伝えるよう、書く順序など文章全体の段落構成を考える指導を行う。

そして、文章の中心となることを明らかにしてまとめることや、自分の考えの理由を明らかにして書くことなど、きめ細かい丁寧な指導を行う。



<算数に関して>

- * 計算の仕方を考えることや、式の意味を図など具体的なものを使って適切に解釈できるよう指導の充実を図っていく。
 - * 図形の性質をもとに、根拠となる事柄を落ちのないうように、これまで学習したことを振り返りながら説明することができるように指導していく。
 - * 様々な問題場面について、ICT等を活用し、数量関係を数直線や線分図などを使って解く活動を取り入れた指導を行う。
 - * さらに、問題の場面を自分で理由付けをしながら図に表す、図に表したことを式にする、また、説明したことを図や式に表すといった、数量関係の説明を深める指導を充実させていく。
- 本調査に参加した6年生には、一人ずつ個別懇談の折りに、個人票をもとに具体的に課題等について説明する予定です。



5 質問紙調査の主な特徴

<学校生活>

- 「学校生活が楽しい」、「学校のきまりを守っている」、「人が困っているときは進んで助ける」、「いじめは、どんな理由があってもいけない」といった学校生活の基本について肯定的に受け止めている児童が多い傾向が見られ素直な子どもの様子がうかがえました。
- 「将来の夢や目標を持っている」、「最後までやり遂げてうれしかったことがある」、「先生はよいところを認めてくれている」などは全国平均を上回っており、自己肯定感をもち、目標を持つなど、前向きに考える本校の子どもたちの様子がうかがえました。

<家庭学習>

- 家で計画を立てて勉強している児童は5割弱で、全国平均よりかなり高い傾向が見られました。
- △ 一方、学校の授業以外に、普段（月～金曜日）の1日あたりの勉強時間は、1時間以上が約6割で全国平均の時間よりやや下回っている傾向でした。

<家庭生活>

- 朝食を食べている児童は8割強で全国平均とほぼ同じで、食べていないと答えた児童は、昨年度の約3%から「0」となり、よい傾向が見られました。
- 毎日同じ時刻に寝る、同じ時刻に起きるも全国より2割程度高い結果で規則正しい生活をしていることがわかりました。不規則な生活をしている児童もいますが、昨年よりも改善傾向が見られ、全国平均よりよい傾向が見られました。

<読書>

- 普段（月～金曜日）の1日あたりの読書時間（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）は30分以上している児童は6割で全国平均より高い傾向が見られ、読書好きと答えた児童は8割強で、全国より高い傾向が見られ、読書好きな本校の子どもたちの様子がうかがえました。また、全くしない子どもは1割弱で、昨年より減少し、全国よりかなりよい傾向が見られました。

- 新聞を毎日、または週に1～3回読んでいる児童を合わせると1割強あり、昨年同様、全国平均より1割程度低い傾向が見られました。
- △ 一方、新聞をほとんど、または、全く読まない児童は6割程度ありました。ご家庭で購読していない現状もありますが、学校でも新聞を活用するなどの指導の工夫を行い、時事に関心を持ち、活字に触れる必要性を感じさせる結果となりました。



6 質問紙調査からの改善点

- * 図書館利用や読書指導は引き続き、図書委員会の活動の充実も含めて、今後もさらに工夫を続けていく。また、新聞を読む児童ほど正答率が高いという傾向もあることから、それらにも興味・関心をもたせ、進んで読もうとする取組を工夫していく。
- * 基本的な生活習慣については、概ね良好であるが、改善を要する状況については、家庭と連携してよりよい生活が送れるように粘り強く取り組んでいく。
- * 1時間以上家庭学習をしている児童は全国と同等であるが、テレビ・スマホなどの時間が多くなり読書の時間が短くなったことが推測される。小中連携教育とも関連させ、推進と定着を図っていく。
- * 本校で取り組んできた自主学習ノートなどの家庭学習を粘り強く継続し、宿題だけでなく、復習や予習などの家庭学習に工夫して取り組んで自分で学習をする習慣や読書をする習慣を育てていく。

7 今後の取組

- ・ 全校体制として授業の目標やめあてを黒板に示し、子どもとの対話や話し合い活動など主体的に参加する授業を工夫し、まとめには学んだことの振り返りを板書するなど、「見通し」と「振り返り」を意識した授業（「やまなしスタンダード」や「甲府スタイル」の授業）を一層推進し徹底していく。
- ・ 宿題、自主学習ノートなど、日々の授業の振り返りができるものを家庭と連携して取り組む。
- 教職員の校内研究で取り組んでいる外国語活動の授業づくりをもとに、来年度から実施される新学習指導要領の趣旨を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、一人一人に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」＝かしこく・なかよく・げんきよくのいけだの子を育てていきます。

<ご家庭にお願いしたいこと>
＝池の子「家庭学習の4つのポイント」＝
(4月の学年総会の折にも配付してあります)

- ① 家庭での学習時間の目安は・・・
低学年・・・20分 中学年・・・40分
高学年・・・60分 が西中学区の目安
・ 毎日なるべく同じ時刻に始めることが習慣化につながります。(歯磨きと一緒に)
- ② 最初に宿題、次に自主学習ノート(4年～)に取り組むなど、優先順位をもつと思考力も高まります
- ③ 復習はその日のうちに。定着がちがいます。
・ 教科書、ノートで振り返ろう
- ④ 余力があれば予習にも挑戦。主体性が育ちます。

